

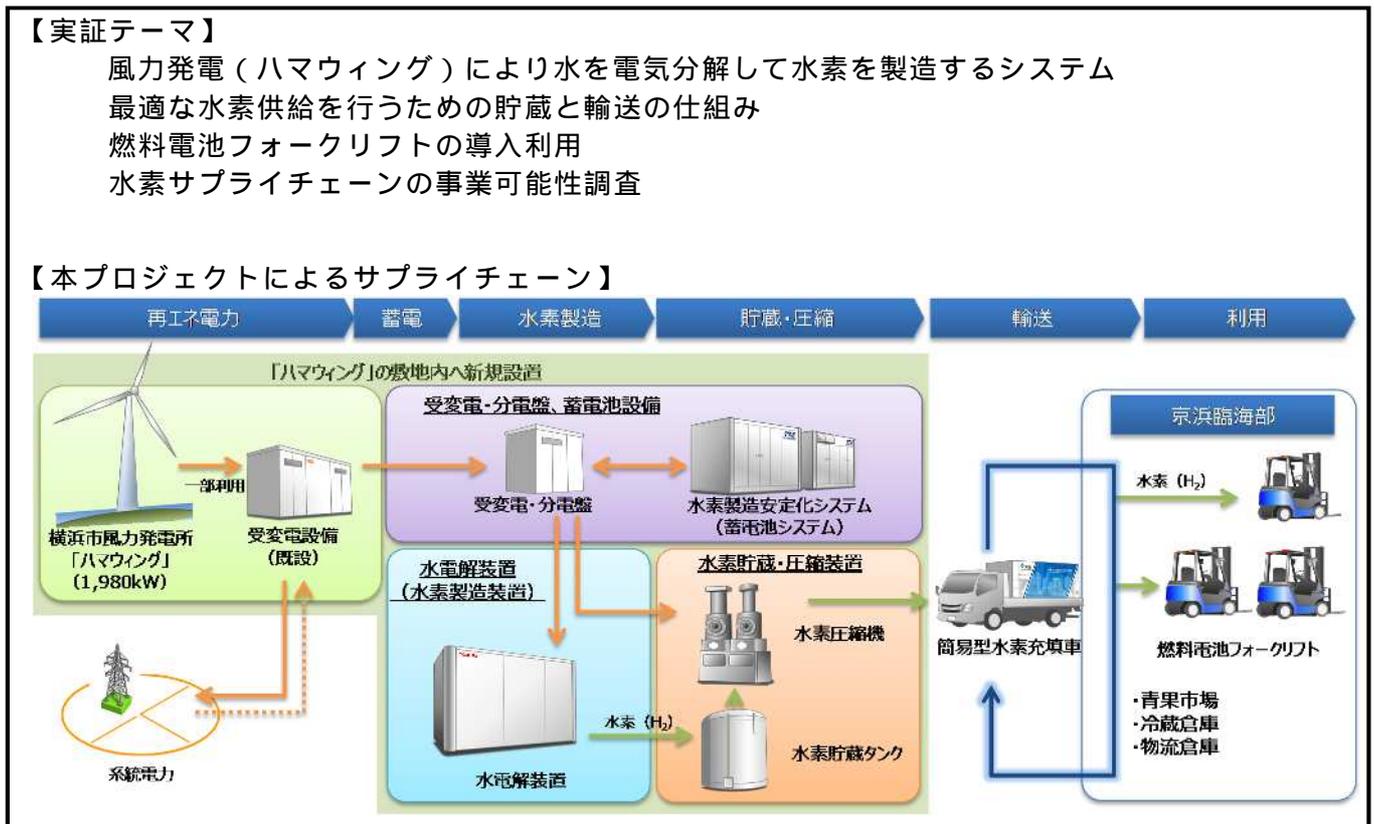
平成 29 年 7 月 12 日
記者発表資料
(横浜市、川崎市同時発表)

風力発電により製造した低炭素水素を 燃料電池フォークリフトへ供給する実証事業の本格運用を開始

神奈川県、横浜市、川崎市、岩谷産業株式会社、株式会社東芝、トヨタ自動車株式会社、株式会社豊田自動織機、株式会社トヨタタービンアンドシステム、日本環境技研株式会社は、環境省委託事業「平成27年度 地域連携・低炭素水素技術実証事業」に採択され、京浜臨海部における再生可能エネルギーを活用した、低炭素な水素サプライチェーンモデルの構築を図る実証プロジェクトを進めてまいりましたが、この度、すべての設備が完成し、本格運用を開始いたします。

本実証プロジェクトでは、横浜市風力発電所（ハマウイング）敷地内に、風力発電を利用し水を電気分解して低炭素の水素を製造し、貯蔵・圧縮するシステムを整備しました。さらに、ここで製造した水素を、簡易水素充填車により輸送し、横浜市内や川崎市内の青果市場や工場・倉庫に導入した燃料電池フォークリフトで使用するといったサプライチェーンを構築します。こうした地域と一体となった水素サプライチェーンの構築により、従来の電動フォークリフトやガソリンフォークリフト利用時と比べて、80%以上のCO₂削減が可能になると試算しています。この実証を通じて、将来の普及展開モデルを見据えた、コスト試算やCO₂削減効果等を検証していきます。

1 実証プロジェクトの概要



2 実証プロジェクトによる具体的な検証内容

将来の他地域展開を見据え、**コスト試算**と**地球温暖化対策への貢献**など**水素サプライチェーンの事業可能性を検証**

< 水素価格 >

- ・ 現状（本実証におけるコスト）の評価から、**量産効果**の検証、**必要な規制緩和項目等**の洗い出しなど、今後の水素価格低下に向けた対応の方向性について検討
- ・ 将来（2030年頃）を見据え、技術革新やサプライチェーンの大規模化による**普及 / 横展開モデル**について検討

< CO₂削減効果 >

- ・ 低炭素水素のサプライチェーン構築により、**従来比80%以上のCO₂削減効果**との試算
- ・ **更なるCO₂削減に向けた取組の方向性**の検討

3 今後の本格運用の概要 (2017年7月～)

ハマウイングの電力を利用した**低炭素水素の製造**を開始

ハマウイング敷地内計画イメージ（日本環境技研㈱）



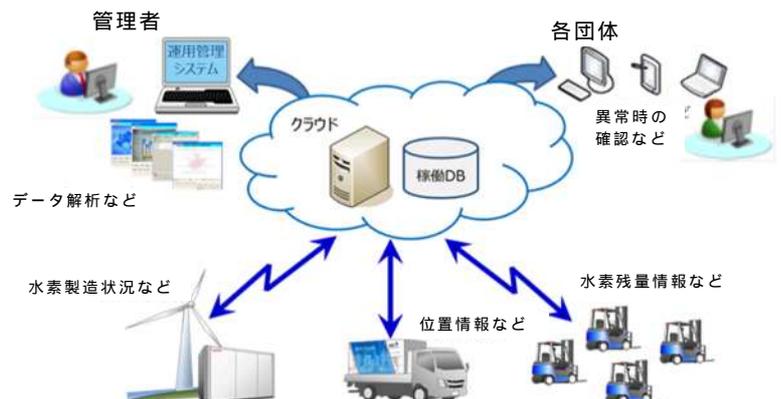
燃料電池フォークリフト12台、簡易型水素充填車2台を用いた水素供給を検証

クラウドを利用し、**水素の製造から利用まで管理・運用**

燃料電池フォークリフト
（㈱豊田自動織機）



マネジメントシステムイメージ



4 今後の実証スケジュール

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業概要	基本設計・試作 事業FS	システム構築 試験的運用	システム構築(続き) 実証機導入・運用開始	運用 評価・波及検討
■ 水素製造	設計・製作準備	受変電改造・分電盤工事 水電解工事	実証運用	
■ 水素貯蔵	設計・製作準備	タンク・圧縮機工事	実証運用	
■ 水素輸送	1号機製作	2号機製作	実証運用(1台)	実証運用(2台)
■ 蓄電池	設計・製作準備	水素製造安定化システム工事	実証運用	
■ 水素利用		試験運用：2台 実証運用(2施設)	本格運用：12台 実証運用(4施設)	
■ ハマウイング敷地工事	計画・設計	発注 基礎・インフラ・事務所工事 ★上水供給開始 ★ハマウイング電力供給	実証運用	復旧
□ 実証運用フェーズ		トライアル	本格実証	

※今後、環境省との協議等により実証内容・実施計画については、変更が生じることがあります。

5 本格運用に先駆けたトライアル(2016年11月～2017年7月)の実施結果

<p>【トライアルの目的】</p> <p>水素供給・充填作業の 習熟 水素・燃料電池に関する 教育 燃料電池フォークリフトの先行導入</p> <p>【概要】</p> <p>横浜市中央卸売市場及びナカムラロジスティクスにて各1台ずつ、試験運用実施 岩谷瓦斯(株)千葉工場から簡易水素充填車により水素を配送</p> <p>【トライアルを通じた評価】</p> <p>電動フォークリフトに比べ、燃料電池フォークリフトは充填時間が短く、また、使い勝手においても特に問題はなく、概ね高い評価 燃料電池フォークリフトの稼働率を高めるために、水素配送回数増加要望あり</p>
--

横浜市、川崎市、岩谷産業株式会社、株式会社東芝、トヨタ自動車株式会社、株式会社豊田自動織機、株式会社トヨタタービンアンドシステム、日本環境技研株式会社同時発表

(問合せ先)

- ・神奈川県 産業労働局産業部エネルギー課：045-210-4101、4133
- ・横浜市 温暖化対策統括本部調整課：045-671-2336
環境創造局環境エネルギー課：045-671-2666
- ・川崎市 臨海部国際戦略本部 臨海部事業推進部：044-200-2095
- ・岩谷産業株式会社 広報部：03-5405-5851
- ・株式会社東芝 広報・IR部：03-3457-2100
- ・トヨタ自動車株式会社 広報部 東京：03-3817-9111～7
名古屋：052-552-0603～9
- ・株式会社豊田自動織機 広報部：0566-27-5157
- ・株式会社トヨタタービンアンドシステム 業務本部 名古屋事務所：052-218-7841
- ・日本環境技研株式会社 環境計画部：03-6912-2311

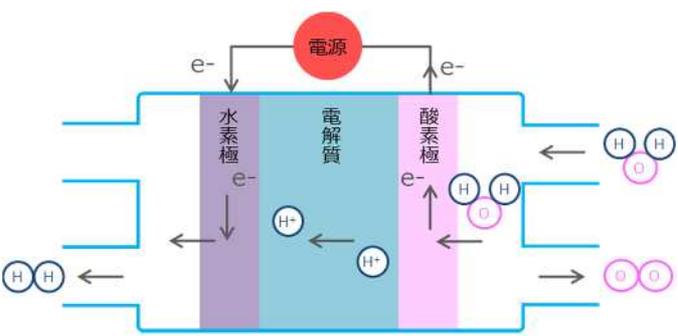
【ご参考】

1 風力発電により水を電気分解して水素を製造するシステム

【水素製造】

ハマウイングの電力を、**水の電気分解による水素製造**及び**装置の動力**としても活用
変動する風力発電量と水素需要の時間差を考慮し、設備を最適運転できるマネジメント
 システムにより**フレキシブルに低炭素水素を製造**

水の電気分解



水電解装置（㈱東芝）



イメージ図

水電解ユニット

エアータンク

フレーム

エアコンプレッサー

仕様

寸法(m)	D6×W2.4×H2.9
種類	固体高分子形
製造能力	10Nm ³ /h

酸素極： $\text{H}_2\text{O} \rightarrow 1/2\text{O}_2 + 2\text{H}^+ + 2\text{e}^-$

水素極： $2\text{H}^+ + 2\text{e}^- \rightarrow \text{H}_2$

2 最適な水素供給を行うための貯蔵・圧縮と輸送の仕組み

【水素貯蔵・圧縮】

水素を安定供給するために、**2日分の水素を貯蔵**
 ハイブリッド自動車の使用済バッテリーを再利用し、**環境性に配慮した蓄電池システム**
 を活用。ハマウイングが止まっても**安定的な水素供給が可能**

蓄電池システム（㈱トヨタタービンアンドシステム）



仕様

電池種類	ニッケル水素
電池個数	180個
能力	150kWh

【水素輸送】

燃料電池フォークリフト用の簡易水素充填車を、**日本初導入**
 フォークリフトの水素使用量を常時把握し、**最適配送**でユーザー要望にきめ細かく対応

簡易水素充填車（岩谷産業㈱）



仕様

使用車両	ハイブリッドトラック4t車
水素搭載量	270Nm ³
充填設備	寸法(m) D3.5×W1.8×H1.35
蓄圧器	容量300L×45MPa×2基

3 燃料電池フォークリフトの導入利用

【水素利用】

導入先は、異なる使用条件で多様な実証が出来る 4 か所（12台）を選定
2016年11月より販売を開始した燃料電池フォークリフトを使用し利用時のCO₂排出量ゼロを実現

燃料電池フォークリフト
(トヨタ自動機)



仕様	
定格荷重	2,500kg
水素充填時間	約3分
水素搭載量	13.4Nm ³
稼働時間	約8時間

稼働率 55%を前提に算出

【燃料電池フォークリフトの導入先等】

導入先		実証の主なねらい
横浜市	横浜市中央卸売市場本場（青果部）	短距離・多頻度使用
	キリンビール(株)横浜工場	重量物運搬
川崎市	ナカムラロジスティクス（かわさきファズ物流センター内）	低温倉庫内での使用と屋内充填
	ニチレイロジグループ 東扇島物流センター	低温物流業での使用

【燃料電池フォークリフトの導入先・水素運搬ルート】



問合せ先

神奈川県産業労働局産業部エネルギー課

課長 清水 電話 045-210-4101

次世代自動車グループ 笠井 電話 045-210-4133